

委員による先進地視察 1. 福島県産業交流館 「ビッグパレットふくしま」(郡山市)

視察日：平成21年11月9日(月)

視察委員：大宮座長、潜道委員、松野委員

1. 施設の概要

- (1) 所有者 福島県 管理運営は指定管理者(財団法人福島県産業振興センター)
- (2) 完成年月 平成10年9月 (事業期間 約8カ年)
- (3) 事業費 約133億円
- (4) 施設規模 敷地面積 5ha
(構成施設) 多目的ホール、コンベンションホール、会議室、屋外展示場等
- (5) 設置目的 中小企業のための技術支援・交流等を目的として設置

2. 施設の現状・課題

- (1) 来場者数
平成20年度末まで、約1,000万人(10カ年)、21年度4～10月末の間 69万人
- (2) 稼働状況
全体稼働率 55%程度(21年度4～10月末)...稼働率80%程度あれば良好
イベント系利用 50%(20年度)
 - ・利用料金単価が大きいため、稼働率が経営に及ぼす影響も大きい
 - ・社会情勢の変化等の影響か、貸出しの主となる展示ホールの利用が減少
物品販売等のイベント、産業関連見本市等の利用が減
 会議系利用 80%(20年度)
 - ・利用料金単価ではなく、貸出回数で収入を増やしている
- (3) 収支の状況(H21当初予算ベース)
 - ・収入 約355百万円(施設利用料、指定管理料等)
 - ・支出 約355百万円(運営管理費)
- (4) 課題
 - ・デザイン(設計思想)と利便性(動線、空調等)は相反する問題
 - ・稼働率向上への取組強化
施設の存在が利用に繋がるものではなく、交通アクセス、アフターコンベンション等が揃うことが必要 外向きの企画提案等、タイアップの必要性



外観



展示ホール



コンベンションホール



小会議室

委員による先進地視察 2 . 静岡県コンベンションアーツセンター 「グランシップ」(静岡市)

視察日 平成21年12月11日(金)

視察委員 亀田委員、小竹委員、横島委員

1. 施設の概要

- (1) 所有者 静岡県 管理運営は指定管理者(財団法人静岡県文化財団)
- (2) 完成年月 平成10年8月(開館 平成11年3月)
- (3) 事業費 約705億円
- (4) 施設規模 敷地面積 約3.6ha、延べ床面積 約6.0ha
(構成施設) 大・中ホール、会議ホール、会議室(19室)、交流ホール、映像ホール、
展示ギャラリー、芸術劇場(別財団が管理運営) 等
- (5) 計画時のコンセプト 東海道沿線の施設との競合回避(浜松市、富士市、静岡市内に
音楽ホールあり) コンベンション中心+芸術劇場

2. 施設の現状・課題

- (1) 来場者数 年平均 約70万人 平成21年3月に累計800万人突破
- (2) 稼働状況 H20: 81.2% 会議室や展示ギャラリーは9割以上
(稼働率高い要因)
 - ・ 駅の間近であること、駐車場も相当数あること(約360台)
 - ・ 使用料が安いこと(東京の1/10、近隣市場価格の1/3)
 - ・ 様々な施設があり、多様な用途に対応できる総合性が強みになっている
- (3) 収支の状況(H20)
 - ・ 経常収益 14.1億円(事業収入、指定管理料等)
 - ・ 経常費用 14.2億円(管理運営費、事業費等)
- (4) 課題等
 - ・ 当初は建設に対する批判があったが、最近は少なくなっている。
 - ・ 施設規模が中途半端で採算があわないため公演等の民間利用が少ない。
大ホールは1,800㎡(5,000㎡以上が一般的)
中ホール(音楽・演劇仕様)は約800席で、観客的には最適な規模だが、採算的には1,200席程度必要。
 - ・ 商圈拡大のため出前事業等実施しているが、現実的には静岡市の属する中部地区が中心
(利用者の7割が中部地区)
 - ・ コンベンション機能と芸術文化機能では、収益性ではコンベンション優位
当館は学会利用多く全館利用で3~4日開催。食事や宿泊等波及効果もある。



外観



大ホール



中ホール



会議ホール